

第1分科会

「子どもが育つ家庭や地域」～地域資源を活用した保育実践～

茨城キリスト教大学 文学部 児童教育学科 飛田 隆

1. はじめに

本テーマに関することについて幼稚園教育要領(平成29告示)から抜粋して確認しておきたいと思います。

第1章総則、第2幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

3(前文略)第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園終了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。(棒線、筆者)と記載されています。

具体的に関係する項目としては(5)社会生活との関わり(幼保連携型認定こども園教育・保育要領では「オ」となっている)

「家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。(中略)公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。(棒線、筆者)」

その他、第6幼稚園運営上の留意事項の2には以下のように記載されています。

「幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにするものとする。その際、地域の自然、高齢者や異年齢の子供などを含む人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな体験を得られるように工夫するものとする。また、家庭との連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたりなどすることを通じて、保護者の幼児期の教育に関する理解が深まるように配慮するものとする。(棒線、筆者)」

2. 認定こども園こじかの発表から

発表されましたサッカー教室(鹿島アントラーズスクールサッカーコーチの方々とともに)や鹿島の偉人「塚原ト伝 新当流」の型を体験して学ぶことも多いのではないかと思います。海水からの塩づくりの見学(地域老人会塩づくりグループの人たちと)などは鹿嶋市ならではの地域との連携だと思います。なかなか他の市では難しいこともあるかと思いますが、地域にある伝統を再度見直し、いろいろな方から情報を集めることでその市の伝統を見つけることができ新たな連携ができる可能性を提供してくれたのではないかと思います。「ひらあい会交流会」などは園のホールを開放することで、地域の高齢者の方々とふれあいが定期的に行えるということです、その他の地域とのかかわりを含め、参考にさせていただく事は可能ではないかと思いました。

3. 河和田幼稚園の発表から

「コミュニティスクールとしてのPTA活動や保護者の取組み」について発表していただきました。

PTA活動は小学校ではかなり前からなかなか決まらずに、くじ引きで決めたり、じゃんけんで決めたりして難しいと聞いています。

本日の発表ではその難しいPTA活動について、「幼稚園の保護者時代にやりたいことを実現する経験を積み、小学校の保護者になっても“子どものために、自分のために何が必要か”を自分で考えるようになれば、学校や社会は違ってくるのでは?と思います。」とご提案いただきました。「“やりたい人が やりたいことを実現しよう”」との発想で「わくわくチャレンジ活動 通称わくチャレ」と呼んで活動されている実践報告は多くの園での参考になるのではないかと思います。

4. 終わりに

本分科会のテーマは「子どもが育つ家庭や地域」ということですので、子どもの育ちが豊かになるためにはいかに家庭と地域と連携を深めるかにかかっているのではないかと思います。

幼稚園教育要領でも触れられておりましたように「教師が指導を行う際に考慮するものである。」ことを意識しながらも「幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図る」このことが大切ではないかと考えております。